阿久根砲

【所 在 地】阿久根市塩鶴町2丁目2 阿久根市民交流センター

【種別】県指定有形文化財(考古資料)

【指定年月日】昭和34年6月10日



昭和 32 (1957) 年に阿久根市旧台場近くの海岸の砂浜で小学生によって発見された。 仏郎機または波羅漢とも呼ばれる後装式蛇砲の最も進んだ形式のものである。仏郎機と は元来、中国でポルトガル人やスペイン人を指した言葉で、転じてわが国では、スペイン ・ポルトガル人がもたらした大砲を指す。15 世紀に作られ、16 世紀に入って改良が加え られた。波羅漢は、江戸時代に外国から伝来した大砲を呼んだ名称である。

阿久根砲は真鍮その他の合金で作られており、口径7 cm, 全長3 m, 弾走部 2.49m, 薬室長 61cm で、弾走部が口径の 35 倍余りもある。砲身の上面には、3か所の紋章様の鋳出しがあり、砲口寄りのものには王冠に盾の文様が見られる。近年の研究によると、「この紋章はポルトガル王室及びドン・マヌエルI世のものと推定され、ポルトガルの支配下であったリスボンかゴアで鋳造されたものと考えられる。しかし、スペイン・ポルトガル統合時代に多数の大砲がスペインに運ばれているため、スペイン・ポルトガルのどちらの船に搭載されていたかは不明である。」とする説がある。

阿久根では、永禄3 (1560) 年、ポルトガル船が越冬、慶長4 (1599) 年、甑島に2隻のスペイン船が漂着、その内1隻を取り調べたという記録がある。